For immediate use Press Release

本資料は、2026年11月4日（現地時間）、インド・ムンバイで発表されたプレスリリースの日本語訳です。
発表内容の詳細は原文をご覧下さい。
URL: https://www.tcs.com/who-we-are/newsroom/press-release/productivity-top-benefit-tcs-enterprise-ai-study

「TCS Enterprise AI Study」調査結果

84%がAI投資による最大の効果として生産性向上を挙げる一方で、人による監督なくAIに実行を委任している企業はわずか10%にとどまる

25カ国を対象としたグローバル調査により、企業経営層がAIの導入において最も重視する要素はセキュリティ、リスク、ガバナンスであることが判明

ムンバイ、2026年11月4日：タタコンサルタンシーサービシズ（TCS）の新たなグローバル調査によると、調査対象となった経営層の84%が、AI投資によって得られた価値の中で、生産性向上を最も重要なものとして挙げています。一方、複数の機能や事業領域において、人による承認を経ることなくAIエージェントによる意思決定の実行を認めているグローバル企業はわずか10%にとどまりました。また、エンタープライズアプリケーション全体にまたがるワークフローを安全にオーケストレーションできるAIエージェントを導入していると回答した経営層はわずか9%でした。こうした調査結果は、企業がAI支援による業務ですでに成果を得ている一方で、AIエージェントにより高い自律性や実行権限を与えるための準備は、いまだ十分に進展していないことを示しています。

調査レポート「**TCS Enterprise AI Study: Intelligence that is real（TCS エンタープライズAI調査－AI活用の実像）**」では、エンタープライズAIの次の段階を左右する要素として、セキュリティの重要性を指摘しています。AIシステムの開発・導入方針を決めるうえで、現在最も重視されているのはセキュリティ、リスク、ガバナンスであり、コスト、スピード、導入のしやすさを上回っています。セキュリティの重要性は、企業がAIに対してアプリケーション、ワークフロー、意思決定プロセスへのアクセスをより広く認めるようになるにつれて、さらに高まっています。

今回の調査結果は、AIが従業員を支援する段階から、より大きな責任を担い、必要に応じてより高い自律性を持って稼働する段階へと進化する、Human＋AIモデル（人とAIが自律的に協働するモデル）へと移行しつつあることを示しています。こうした変化が進む中で、AIからより大きな価値を引き出すためには、人による監督が不可欠な領域と、AIにより大きな実行権限を与えられる領域を適切に判断できるよう、セキュリティ、ガバナンス、統制を整備することが重要になります。

TCS最高AI・サービス変革責任者のアミット・カプール（Amit Kapur）は、次のように述べています。
「企業におけるAIの全社展開は着実に進展しています。AIは人を支援する段階から、企業内のさまざまな情報や業務に深くアクセスしながら、より自律的な実行を担う段階へと明確に移行しています。現在、企業がAIから最も大きな価値を実感しているのは生産性向上であり、経営層の84%がAI投資から得られる最大の価値としてこれを挙げています。また、10%は売上向上も実現していると回答しています。一方、企業が慎重になっている背景には、当然ながらセキュリティ、ガバナンス、レジリエンスに対する懸念があります。適切なガードレールと全社的な統制のもとで責任ある形でAIを導入することが、今後の取り組みにおける重要な焦点となるでしょう」

モデル選択の柔軟性

経営層は、AIのレジリエンスと柔軟性にもますます注目しています。回答者の90%が、特定のAIプラットフォームやモデルに依存しないことはAI投資の意思決定において重要な要素であると回答しています。また、34%は、データ保存場所の管理、モデルの選択、コンプライアンス対応などのAI主権関連要件について、自社にとって「高い」または「非常に高い」組織リスクであると認識しています。こうした懸念は欧州で顕著であり、43%がAI主権関連の要件を「高い」、または「非常に高い」組織リスクとして挙げています。一方で、AIプロバイダーを切り替える際の事業継続計画を全社的に整備している企業は、世界全体でわずか7%にとどまりました。このことは、モデル依存やAI主権に対する懸念がある一方で、運用面での備えが十分に進んでいないことを示しています。

本レポートでは、以下のような調査結果も明らかになりました。

- **AIの費用対効果を見直している**：企業の39%が、AIの活用がトークンコストと演算コストに見合う十分な価値を生み出しているかどうかを引き続き検討・評価していると回答
- **業務知識は依然として分散している**：回答者の44%は、重要な業務知識が従業員個人の知識として保持されている、または部門ごとに分散した文書の中に存在していると回答、企業全体の業務コンテクスト（文脈）の十分な活用を妨げる要因となっている
- **オープンソースAIの活用が広がっている**：46%が、特定のユースケースにオープンソースAIを導入していると回答
- **AIが人材におよぼす影響が予測困難になっている**：AIが人間の仕事におよぼす影響を判断するには時期尚早と回答した経営層の割合が、2024年の4%から2026年には19%に増加
- **AIがもたらす最大の価値は生産性の向上**：これに次いで、顧客体験の向上、新製品／サービスの開発が続く

地域によってAIの優先事項と準備状況に違い

本調査では、エンタープライズAIの導入状況に地域差があることも明らかになりました。北米では、エンタープライズAIを支える基盤に関する複数の項目で特に高い成熟度が見られ、回答者の15%がAIを戦略的な全社ケイパビリティとして位置づけていると回答しています。欧州ではAI主権への関心が高く、43%がAI主権関連の要件を高い、または非常に高い組織リスクとして挙げています。一方、英国およびアイルランドでは運用レジリエンスの面で際立った結果が見られ、AIの継続運用計画やガバナンス統合の整備状況が他地域に比べ進んでいます。

調査手法

本調査は、25カ国・12業界の経営層およびテクノロジー部門の上級幹部1,333名を対象に実施しました。回答者には、年間売上高5億米ドルから200億米ドル超の企業に所属する、CxO（最高経営層）、事業部門責任者、シニアバイスプレジデントおよびバイスプレジデントが含まれます。

「**TCS Enterprise AI Study: Intelligence that is real（TCS エンタープライズAI調査－AI活用の実像）**」の全文は、以下をご覧ください。

https://www.tcs.com/jp-ja/trends/tcs-enterprise-ai-study

以上

タタコンサルタンシーサービシズ（TCS）について

タタコンサルタンシーサービシズは、世界のさまざまな業界を牽引する大手企業から選ばれるテクノロジーパートナーです。1968年の創業以来、イノベーション、卓越したエンジニアリング、そしてカスタマーサービスにおいて最高水準を追求してきました。「世界最大のAI主導型テクノロジーサービス企業」への成長を掲げ、インフラからインテリジェンスに至るAIスタック全体にわたり、お客さまの変革を支援しています。

TCSはタタ・グループの伝統に根ざし、お客さま、投資家、従業員、そして広く社会に対して、長期的な価値を創造することに注力しています。56カ国に広がるハイスキル人材と、世界194か所のサービスデリバリーセンターを擁し、世界各地でトップ・エンプロイヤーに認定されています。TCSは、新技術を迅速に適用し、大規模に展開する能力を活かしながら、お客さまとの長期的なパートナーシップを構築してきました。こうした関係の多くは数十年にわたり、1970年代のメインフレームから現在のAIに至るまで、あらゆる技術革新の波を共に乗り越えてきました。

TCSは、人々の健康の促進や持続可能な社会の実現、コミュニティのエンパワーメントを目的に、TCSニューヨークシティマラソン、TCSロンドンマラソン、TCSシドニーマラソンを含む、世界有数のマラソンおよび耐久レース14大会を支援しています。2026年3月31日を期末とする会計年度において、TCSの連結売上高は300億米ドルに達しました。

TCSの詳細については、www.tcs.comをご覧ください。